



第 60 号

発 行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校校内

天守台編集委員会

TEL (0761) 21-6330

昨年度より、本校の副校長を務めさせて
いただいております森博之です。昨年度は
百二十周年の大きな節目の年であり、記念
式典や記念祝賀会、記念事業に携わること
ができた変嬉しく思っています。本校に勤
務するようになり、驚いたことがいくつかあ
ります。まず一つめは、校舎にあたりまえの
ように並んでいる美術工芸品の数々と伝統
を感じさせる記念館や天守台の存在です。
日本を代表する方々の作品が日常として
展示されていることだけでも驚きですが、
百二十周年収蔵品特別展が催されている



年頭所感

『伝統校の力』

石川県立小松高等学校

副校長 森 博之

高校男子バレーボール部でした。当時顧問
として生徒を指導されていたのは、本校同
窓会副会長の山田勝裕先生(高26回)です。
それまでのバレーボールの攻撃スタイルの
主流は、速攻を交えながらシフト、ライトの
高トスを用いた攻撃を中心にするもので
した。これに対して、小松高校の攻撃は何種
類かの速攻とシフト、センター、ライトから
少し低めのトスを用いた攻撃をうまく組み
合わせたもので、今までにない速い動きが特
徴の新しいスタイルでした。セッターから繰
り出される緻密で正確なトスを、アタッカー

いう伝統ある基幹校が存在し、七高(ななこ
う)、泉(いずみ)、松高(まつこう)と在校生、卒
業生、地域の人々に呼ばれ親しまれていま
す。このような伝統校で学ぶとはどのような
ことなのでしょう。私は高校時代を七高で
過ごし、教員として泉、松高で勤めてきて感
じることは、知らず知らずの間にその学校
の諸先輩方が大切にしてきた力が身につく
ということ。在校中から身につけている
ことが感じられる生徒もいれば、卒業して
感じられる生徒もいます。学習成績や部活
の実績には個人差がありますが、三年間
その学校で学んだことで身につく共通の力
があるのです。卒業生は日々の生活や仕事
など様々な場面でその力をもとに活動した
り、時には同窓生と語り合うことでその力
を再確認したりしているのだと思います。

校舎の様子はさらに圧巻でした。二つめは、
同窓会活動やPTA活動がとて盛んなこ
とです。母校のために何かしたい、在校生の
ために何かしたいという気持ちがひしひし
と感じられる場面が多くあり、私もこの学
校のために頑張らなければという気持ちを
強く抱きました。

陣が着実に攻撃していく様子に、「こんな斬
新なバレースタイルがあるんだ」とすぐ感
動したのを今でも覚えています。さらに感心
したのは、小松高校の選手が、当時全国大会
常連の高校を相手にしても怯むことなく、
堂々と自分たちのスタイルを実践していた
ことです。この自分たちのできるスタイルを
徹底的に追求し実践していくという姿がの
ちに平成15年度春の高校バレー全国大会出
場につながっていったのだと思います。

現在、国は「IGAスクール構想」を計
画し、学校にはICT機器が配備され、新
しい授業スタイルや新しい部活動の形など
が今後実施されていくことでしょう。しか
し、授業や部活動の形態が変化しても、松
高生として身につけていく力が変わること
はありません。この力のためにすべての活
動において全力で指導、支援していく所存
であります。

本校と私の出会いについて記させていた
だきたいと思えます。私は教員生活の初任
からバレーボール部の顧問をしてきました。
その中で印象に残っているチームはいくつか
ありますが、最初に衝撃を受けたのが小松

さて、石川県は能登、金沢、加賀からなり、
それぞれの地域には七尾、金沢、泉、小松と

この伝統ある素晴らしい学校に勤務で
きることに感謝しつつ、同窓生の皆様や地
域の皆様から愛される学校であるように、
日々精進していきたいと思っております。
今後母校の発展のためにご理解とご支
援をよろしく願いたします。

ホームスクール カミングデー

本間 憲彦 (高31回)

母校を訪ねて

干支がぐるりと回って何やら面映い心持ち。めでたいと周りが囁すほど本人はめでたいと感じていやしない。ましてや、来し方の食い散らかした残渣の堆積を見るにつけ、行く末の先送りにした事柄の山積を思うにつけ、60の齢を重ねた僕はただ呆然と立ち尽くすばかり。ピンぼけ頭は、おまけに経年劣化も加えて、記憶はますます曖昧になってゆく。そんな日々のなか、同窓会の案内がきた。大脳皮質にこびりついた高校時代の情景は果たして存在したか、その時間は確かに流れていたか。卒業以来の母校再訪は一つの検証となるかもしれない。



ビッグ・ピンクふたたび

松の木立のあいだにサーモンピンクの瀟洒な洋館が見え隠れする。高校生の頃は、くすんで剥げたペンキ壁の、内部にはアジテーションの殴り書きやヘルメットの2、3個も転がって、いそうな建物をビッグ・ピンクと呼び習わしていたのだけれど、それがまあ見違えるほどに。入り口に掲げられた今出来のオーベルジュかペンションみたいな吊り看板がちよっとアレですが。2020年11月3日、第20回ホームスクールカミングデーの日、初めてビッグ・ピンクに足を踏み入れた。

中に入ってみれば、違う時間が流れている。階段教室に入る。どこに落ち着こうかと見渡して当たりをつける。座るのは決まって後方の廊下側。昔からそこが指定席みたいなものなので。戦前規格なんだろうな、狭い座席に腰を入れて正面を見る。演台が近い。ノートの端っこにお絵描きして時間を潰すなんてできそうもないくらい近い。あっ、表純一先生、こんにちは。特別授業が始まる。

記憶はどこからきたのか

先生の授業の要約には全くなっていないのだが、人類の持つ神話学的な記憶は、個々の民族の差異を超えた普遍性を呈する。例えば、造物主だとか世界の始まりだとか、空間的にも時間的にも隔絶されているにもかかわらず、似通った姿をとることが多い。これをヒトのDNAに連続と刻まれた記憶なんて表現したりする。果たし



て、遺伝子にそんな遍在性、連続性があるのか。それよりは、人間の体を構成する物質は、46億年前に誕生したという地球、いや、それ以前の宇宙に由来するのだから、原子の記憶といえるのではないか。さすが国語の先生、ロマティックです。

薔薇と天守台

外に目を向けると、陽射しというには弱く柔らかい秋の光が窓越しに室内に淡い影を作っている。40余年前、外に面した窓は不格好な二重窓。ある晴れた日、窓と窓の間の15センチメートルくらいの幅の空間に薔薇一輪を閉じ込めた。太陽を集めてドライフラワーに仕立てあげようとの目論みが、「誰こんなところに置いたのは？ 捨てるよ」という声とともに、乾燥しきった花びらはパラパラと床に舞い落ちる。

廊下側の窓からは、午前の授業が終わるやいなや、いつもの顔が教室を覗

きこむ。連れ立って、桜並木の細い道を天守台まで通った。人の姿など滅多になかったのだけど、今日は生徒とすれ違う。間隙を入れず「こんにちは」と声をかけられて、還暦オジさん感激、なんてい子たちなんだと感じ入る。同級生が校長となって同行しているのだから当然という身も蓋もない話ではなしにして。

天守台跡は思っていたより狭い。木が茂っていた頃は、カップルの一組や二組、木陰でひそひそ声を交わしているもおかしくない気配が、すっかり整地されて空が低い。小松の街を見渡すと、そこには僕の姿があった。かつて自分たちが星くずであったときの記憶をすっかり忘れた高校生が。

天守台 修繕工事完成

7月より行なわれていた天守台修繕工事が10月末に完成しました。石積み階段の老朽化のため、これまで立入禁止となっていました。木製階段と木製柵が設置され、天守台に上ることが可能になりました。11月3日のホームカミング

デーでは、第31回生が新しくなった天守台を訪れ、上からの景色を楽しみました。



数値制御技術の開拓者
妖(洋)画家に変身

妖(洋)画家



岸 甫 (高12回)

パリの「ル・サロン2021」展に入選したとの報が届き、半信半疑で何回も読み返した。世界遺産になっている「グラン・パレ」に私の絵が展示されるという。

ル・サロン展は1667年にルイ14世により創設され、後にナポレオン三世が国際展に発展させた350年を越える歴史ある美術展らしい。マネ、ミレー、ルノワールなど美術史上に残る多くの巨匠が名を馳せた。

あり得ない人が絵を描き、内外の公募展に次々と入選し始めたことで話題となり興味を持たれ、特にお世話になった工作機械業界からは「迎賓館や会議室、応接室に掛けたいの」との要望も多くなった。

工作機械用CNC装置(コンピュータ化された数値制御装置)や産業用ロボットの世界のトップメカとなったファナック(株)で開発や普及の先頭に立ち続け、専務取締役社長補佐を最後に72歳の誕生日を機に引退した。しかし、半世紀以上も昼夜を問わず働き続けた「習性」から抜け出せず、母校の電気通信大学の学長特別補佐やサイバネットシステム(株)の

社外取締役など、依頼があれば引き受けている。

それでも、自由な時間ができ、73歳から近所の絵画教室で絵を描きはじめた。二科展、示現会展、旺文会展、第一美術展など国内の主な公募展に入選できたのに味を占め、フランス、イタリア、フィンランド、スペインなど興味のある国や場所の公募展にも挑戦し始めた。その地を訪れて、日本からの「アーティスト」として歓迎され人々と交流するのが楽しみにしている。

小学校の校長を経て県庁の幹部となっていた父親が、日本が占領した北ボルネオを治める司政官として、生まれて十ヶ月目の私を残して戦地に赴き戦死した。父親の記憶は全く無く、母親に育てられ1960年(昭和35年)に小松高校を卒業した。

どうにか大学に入ったが、家からの仕送りは無く、既に東京にいた兄を頼るよう言われた。国立大学は授業料は安く寮生活だったとはいえ、特別奨学金では暮らして行けない。日活や大映の撮影所が近くにあって、金が必要な時は映画のエキストラに励んだ。売り出し中の浅丘ルリ子、吉永小百合、小林旭、穴戸錠などと何本も共演(?)したものだ。

大学3年次に、理化学研究所が国産コンピュータを用いて日本最高の電子計算機室を作ることになり、有山正孝先生(後の電気通信大学学長)の紹介で、理研のソフトウェア開発要

員に採用された。相馬富先生に付きつきりでコンピュータを教えていただいた。

大学卒業時に、理研が採用したコンピュータメカの沖電気に就職した。理研では沖電気の人から「先生」と呼ばれていたが就職したら同じ人から「君」と呼ばれ戸惑い、厳しい世の中の第一歩を学んだ。

沖電気では、工作機械やロボットを自動運転する数値制御事業に参入を決定していたが、海の物とも山の物とも判らない新分野への適任者が無く、新入社員の私をあてがった。世間知らずで何事にも怖じることの無かった私は、先んじていた米国のペンディックス社やイリノイ工科大学などで学び、気がつけば我が国における数値制御技術開発の草分け的存在となっていた。大学時代

は、学ぶために授業料を払い、世に出たら新しいことを学び挑戦すればするほど給料が入る・・・、こんなに素晴らしい事は無く、ひたすら仕事に没頭した。

そして、世界初のマイクロプロセッサーNCの実現を

主導し、1979年にファナック(株)に転籍した。

ファナックでも存分に働かせていただいた。目標は自分達の商品で世界一のシェアをとり製造業に革命をもたらすことであった。第一線を退いた後も、特に工作機械業界の方々の縁は絶ちがたく、今でも、ファナックの顧問として、ファナック(株)の会長より「妖怪」という特別の称号を授かり、何処にでも出没できるような粋な計らいを得ている。

しばしば小松にも出没して、地元企業の訪問したり、小松高校時代の友人と一献かたむけたりしている。

絵画を中心とするアーティストと会う機会が増えたので、個人名刺には「妖(洋)画家と名乗っている」。



卒業生の方々に支えられて

進路指導担当

高田 優 (高35回)

小松高校は、「文武両道」、「自主自律」を校是とし、進路実績・部活動等、素晴らしい成績を上げていますが、生徒が自らの生き方・あり方を考える機会をあまり与えてこなかったのではという思いもあって、自分が担当した学年の生徒には、多くの卒業生の方にお話をさせていただきました。今年度は進路指導という立場から生徒自身のキャリア形成に寄与できればと考え、多くの若手卒業生の方にご協力いただきました。

① 1年生キャリア講演会

6月13日(土)

「高校1年生が自身の生き方・あり



キャリア講演会1

「2005年スティーブ・ジョブズ氏のスタンフォード大学卒業式でのスピーチ」の動画を視聴し、感想を書き留めておいた上で、講師それぞれが「どのようにやりたいことを探してきたか」のテーマで経歴を紹介しました。2ヶ月の休校明けでまだ学校に慣れていない時期のため、スマートフォンから質問を受け付けるWEBサービスを用いて、生徒は対談に参加しました。生徒との応答の中で、「興味のメカネ」「やりたいことは変化する」「人生に正解はない」「探し続ける」「自分で決める」という講師の言葉が生徒の心



キャリア講演会2

に届いていたようでした。4月からの助走期間もなく、いきなり文理選択の迫る1年生にとって、受身にならず、自身の生き方・あり方を考える上で、貴重な時となりました。

② 2年生クリエイティブ

人材育成事業 9月26日(土)

「各界・各分野で活躍する本校の若手卒業生を招き、それぞれの経験を交えながら業務の内容やその職業に就いた動機、将来の目標等について語っていた。生徒が主体的に自らの進路を考える一助とする」という目的で始めて、今年が3年目となります。飯田崇義氏(高46回)、徳田澄代氏(高49回)、熊田朗子氏(高50回)、飯貝誠氏、土下淳也氏、道下知子氏(以上高53回)、石川勤氏(高55回)、寺西望氏(高56回)、新道雄大氏(高57回)の9名が、この会



クリエイティブ人材育成事業1

の趣旨に賛同し、協力してくださいました。

会の前半は、講堂(第一体育館)で、①「今まで一番印象に残った選択・決断(後悔も含めて)」、②「コロナでどんな影響を受けたか」「コロナの前と後」というテーマでパネルディスカッションを行いました。6月の1年生の講演会と同様、生徒はグループフォームを用いて質問を投稿し、講師がそれに答え、話し合う形を取りました。これまで生徒が知ることのなかった多様な価値観や職業に触れることができました。思っています。

会の後半は、9名の講師がそれぞれ教室に入り、セッション(話し合い)を行いました。事前に講師から生徒と話し合いたいテーマが提示されており、生徒は自分が選んだ講師との質疑応



クリエイティブ人材育成事業2



クリエイティブ人材育成事業3

答やワークショップに取り組んだりあつという間の時間でした。
 会終了後に生徒が記した感想には、これまでの自身を振り返るとともに、これからの自分の生き方について前向きに進んでいこうという肯定的なものが非常に多く、まずまずの成果を上げることができたと評価しています。

③ 学問・大学探究
 新型コロナウイルス感染症で多くの行事が中止となる中、20年あまり続いてきた「大学見学会」も今年度はやむなく中止となりました。その代替として企画したのが「学問・大学探究」です。当初は東京大学生と小松高校をオンラインで結んで、高校1、2年生と対話を行ってもらうつもりでしたが、東京大学だけでなく、大阪大学(6/23)↓

高校69回卒業生を中心に、各学生の学問研究分野の紹介および後輩である高校生へのメッセージというテーマでプレゼンテーションを行ってもらいました。彼らの研究内容は、高校生にとっては難しいものもありますが、身近なものへの関連づけや柔らかなアニメーションなど、大学生の若い感性が現れていて、高校生が自ら学問への扉を開くような仕掛けが随所に見られました。オンライン上のプレゼンテーションという数年前なら考えることなどなかったことですが、コロナ禍に加え、情報機器を柔軟に使いこなす若者だからこそできたことかもしれません。



学問・大学探究(大阪大学編)

東北大学(7/7)↓九州大学(8/4)↓北海道大学(9/8)↓京都大学(10/20)↓東京大学(10/27)、と旧帝国大学6校の学生に協力していただきました。

これまで、講演会など、イベントを企画する際には、講師の方と直接お会いして打ち合わせを行っていましたが、コロナ禍のため、打ち合わせは主にア



学問・大学探究(東京大学編)

理選択やそもそも大学の学問内容についてあまり知識のない1年生にとつては、貴重な会となったようです。毎回多くの参加者があり、大学生への質問など、積極的に行動する姿勢が見られました。9月に初めて行った進路志望調査では、東京大学・京都大学・国立医学科という最難関や旧帝国大学を含む難関大学への志望者が近年で一番多いという結果になりました。彼らの志望を頼もしく思うと同時に高い志を貫いて、夢への扉を開いて欲しいと願っています。

これまで、講演会など、イベントを企画する際には、講師の方と直接お会いして打ち合わせを行っていましたが、コロナ禍のため、打ち合わせは主にア



学問・大学探究(東北大学編)

り開催することができませんでした。文理選択やそもそも大学の学問内容についてあまり知識のない1年生にとつては、貴重な会となったようです。毎回多くの参加者があり、大学生への質問など、積極的に行動する姿勢が見られました。9月に初めて行った進路志望調査では、東京大学・京都大学・国立医学科という最難関や旧帝国大学を含む難関大学への志望者が近年で一番多いという結果になりました。彼らの志望を頼もしく思うと同時に高い志を貫いて、夢への扉を開いて欲しいと願っています。

これまで、講演会など、イベントを企画する際には、講師の方と直接お会いして打ち合わせを行っていましたが、コロナ禍のため、打ち合わせは主にア

ブリークセッションソフトZoomを使用し、資料の送付や確認はメールで行いました。非常に多忙な社会人の方にとつては、対面ではなく、Zoomの方が都合がよいという面もありました。コロナ禍のため各大学がオープンキャンパスを中止する中、代替とまではいかないまでも、現役大学生によるオンライン説明会は、高校生にとつて、自身の進路決定への一歩になったのではと確信しています。

貴重な時間と多大な労力をお願いして非常に申し訳なく思っておりますが、皆さん「母校のためにお役に立てたら」の言葉でご協力してくださいました。とてもありがたいことと感謝しています。今後ともよろしくお願いたします。

小松高校創立120周年記念事業および行事

記念事業

募金事業

延べ件数：4,028件

総金額：64,969,524円 (令和元年6月末まで)

目標額：50,000,000円

近十年史刊行事業

平成21年から平成31年まで、校友誌「天守台」に掲載した同窓会事業や行事を出来る限り掲載編纂いたしました。ご寄稿いただいた先生方や同窓生の皆様に心より感謝申し上げます。小松高校の近十年と歴史を振り返っていただければ幸いです。



特別記念事業

「青雲の小径」桜並木の再生事業

最盛時に較べ真に寂しい姿であった桜並木の再生を図りました。平成29年より木々の過密状況の解消・透水性舗装化・土壌改良等を順次行い、何とか桜のトンネルも復活しました。今後数年で樹勢回復を確かなものにして行きたいと思えます。



記念館整備事業

同窓生の青春の記憶に刻まれている記念館は、ピンクの館として愛され、100周年に大改修が行われましたが、20年が過ぎ、特に外板の汚れや傷が目立ち、今回の整備となりました。外板塗装では、創建時のピンクの色合いに思いをはせて仕上げ、また、近20年の松高の変遷を展示する第3展示室を新設しました。記念館は「青春のふるさと」としていつも皆様をお待ちしています。



部活動用マイクロバス・大型バス贈呈

平成26年3月にマイクロバスを贈呈しました。さらに老朽化した大型バスを更新しました。ますます文武両道に磨きをかけてほしいと思います。

マイクロバス購入



大型バス(40人乗り)購入



校内ボート大会用ボート購入事業

創立100周年記念事業で購入した校内ボート大会のボートの痛みが激しく、伝統の大会存続も危ぶまれる状況で、新たにボート三艇を寄贈しました。ボートの艇名は、校歌の歌詞より、「はくさん」「おおぞら」「みらい」と命名しました。



小松高等学校
創立120周年記念事業 [決算報告書]

収入総額..... 94,928,259円
支出総額..... 61,193,546円
差引 130周年繰越額 33,734,713円

◆収入の部

(単位:円)

大項目	中項目	決算額	摘要
運営基金	運営基金	6,689,966	
	マイクロバス	6,900,000	
基本財産	基本財産①	10,120,284	
	基本財産②	5,050,101	
寄附金	寄附金	65,437,761	
雑収入	雑収入	730,147	タオル売上、預金利息
計	計	94,928,259	

◆支出の部

(単位:円)

大項目	中項目	決算額	摘要
事業費	名簿整備	2,605,828	名簿整備理事謝礼、名簿整備郵送料、封筒印刷代他
	記念式典 (学校側で)		式典案内経費、関係者記念品代、式典看板他
	記念講演	604,994	講師謝礼・旅費、花束代他
	青雲の小径再生	4,796,400	青雲の小径舗装、記念植樹、石碑、維持管理、施肥他
	記念館整備	7,706,888	記念館改修、展示室改修他
	教育環境整備	30,225,982	部活動マイクロバス・大型バス・ナックルフォア艇購入費他
	募金委員会	10,937,615	パンフレット・振込用紙・封筒印刷代、銘板作成費、募金事務局費他
	近十年史編集	2,370,587	近十年史印刷代、関係者郵送代他
	祝賀会	110,718	来賓控室、記念写真、相撲甚句謝礼他
	ゴルフ大会	500,000	ゴルフ大会開催経費
俳句短歌	340,128	チラシ印刷代、選者謝礼他	
記念美術展	994,406	会場使用料、搬入・搬出等展示経費、看板・DM作成費、案内郵送料他	
計		61,193,546	

平成31年度 小松同窓会 [会計決算書]

収入額..... 4,442,785円
支出額..... 3,818,415円
翌年度繰越額..... 624,370円

◆収入の部

(単位:円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	摘要
会費	3,190,000	3,190,000	0	30年度卒業生 319人×10,000円
繰越金	1,124,294	1,124,294	0	
雑収入	127,706	128,491	785	30年度卒業生記念館等管理費、預金利子等
計	4,442,000	4,442,785	785	

◆支出の部

(単位:円)

科目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(A-B)	摘要
総会費	200,000	128,537	71,463	総会等諸費用
卒業記念品	300,000	287,760	12,240	31年度卒業生 卒業記念メダル
通信事務費	210,000	98,834	111,166	総会・新年会、理事会、120周年実行委員会等開催案内等
渉外費	170,000	163,288	6,712	事務局電話料、高校野球新聞広告料等
業務委託料	960,000	960,000	0	事務局業務年間委託料
会報事業費	550,000	381,214	168,786	会報「天守台」58・59号印刷代等
記念館事業費	580,000	478,849	101,151	ホームスクールカミングデー、記念館特別展開催経費
記念館管理費	500,000	500,000	0	令和元年度分記念館管理費積立
会合事業費	300,000	264,000	36,000	理事会、幹事会、120周年実行委員会開催経費、小松同窓会富山支部総会出席経費等
一般事業費	220,000	203,138	16,862	プリンター、インク等事務用品購入代
雑費	100,000	55,000	45,000	役員香典・生花代
予備費	352,000	297,795	54,205	鈴木選手激励懸垂幕等
計	4,442,000	3,818,415	623,585	

記念行事

記念式典

開催日 令和元年7月13日(土)

開催場所 小松高校 講堂

記念講演

開催日 令和元年7月13日(土)

開催場所 小松高校 講堂

記念祝賀会

開催日 令和元年7月13日(土)

開催場所 ホテルビナリオKOMATSUセントレ

記念ゴルフコンペ

開催日 令和元年7月14日(日)

開催場所 片山津ゴルフ倶楽部
白山コース

参加数 220名(55組)



優勝トロフィーを吉田美統先生に製作していただき、ご寄附いただきました。

記念美術展

開催期間 令和元年
7月12日(金)~21日(日)

開催場所 小松市民ギャラリー ルフレ

収蔵品特別展

開催期間 令和元年
7月12日(金)~11月2日(土)

開催場所 記念館収蔵庫・
校舎ギャラリー

記念俳句・短歌募集

120周年を記念して俳句・短歌にご応募いただきました全国の同窓生の皆様、懐古の母校に万感込めて詠み届けて下さいました。その総てをご紹介出来ない事がとても残念です。皆様のご協力ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

進路指導課より

「昨年度の入試の振り返り」と
「本校の進路指導方針」

2020年度入試の全国的傾向ですが、センター試験の志願者数が前年に続いて減少し、過去10年で最も高い減少率となりました。21年度入試には大学入学共通テストの導入をはじめとした入試改革が控えており、20年度入試では国立大・私立大を問わず安全志向が強くと見られました。

さて、本校の昨年度入試結果ですが、東京大学3名、京都大学4名、一橋大学1名を含む難関10大学に56名が合格、国公立大学には225名が合格しました。4年制大学へ進学した生徒のうち71%が国公立大学に進学しており、例年同様、国立大学志望者の割合が高くなっています。校是である「文武両道」を貫き、「受験は団体戦」という思いのもと、「チーム小松」として、最後の最後まで努力を継続していた生徒が多く見受けられました。全国の傾向と異なり、第一志望を貫くために再チャレンジを選択した生徒は昨年より増えています。「現役で最高の志望実現率」を図るのは当然ですが、第一志望を貫く強靱な精神力を備えた生徒の育成にも努めていきたいと考えています。

本校の学習・進路指導の方針は、「自ら考え求める学習」と「自ら切り拓く進路」を柱に、次の大学や社会においても学び続け、さらなる飛躍を成し遂げる人間力を育成するものです。今後も全教職員一丸となり、全力で生徒の進路実現の達成を支援してまいります。

最近3か年の大学合格者数 (浪人生を含む)

大学名	R2	H31	H30	大学名	R2	H31	H30	大学名	R2	H31	H30		
北海道大学	6	6	11	金沢大学	人文	4	6	4	自治医科大学	1	0	0	
東北大学	8	12	11		法	3	5	4	早稲田大学	5	6	7	
東京大学	3	3	4		経済	3	4	2	慶応義塾大学	2	4	6	
東京工業大学	0	3	3		学校教育	7	6	6	上智大学	4	2	5	
一橋大学	1	0	0		国際	1	2	2	中央大学	1	1	6	
名古屋大学	4	3	5		地域創造	5	4	1	明治大学	8	3	8	
京都大学	4	7	2		理工	理工	21	22	17	法政大学	3	10	2
大阪大学	16	13	12		医療	医	6	4	5	青山学院大学	1	3	3
神戸大学	12	15	9		保健	保健	10	7	10	日本大学	3	4	9
九州大学	2	1	0		薬	薬	1	3	1	東京理科大学	14	12	6
10大学合計	56	63	57	一括	文系・理系	3	2	1	同志社大学	37	33	19	
筑波大学	0	0	2	金沢大学計	64	65	53	立命館大学	61	60	47		
お茶の水女子大学	0	1	0	電気通信大学	0	1	3	関西大学	17	23	19		
千葉大学	1	3	5	名古屋工業大学	2	0	1	関西学院大学	13	8	7		
横浜国立大学	1	0	0	奈良女子大学	0	5	6	京都女子大学	20	19	11		
新潟大学	11	15	13	広島大学	5	5	3	私立大学計	502	433	408		
富山大学	26	17	18	石川県立大学	2	2	1	短期大学					
福井大学	6	16	23	石川県立看護大学	1	0	1	準大学	12	11	16		
信州大学	6	4	6	公立こまつ大学	3	5	10	各種学校計					
静岡大学	1	1	2	国公立大学計	225	243	248	現役卒業生	313	318	314		

- 「天守台」編集委員会
- 委員長 東 次郎 (高校22回)
 - 副委員長 山口和博 (高校34回)
 - 委員 野田洋子 (高校12回)
 - 前口百合子 (高校12回)
 - 宮浦誠治 (高校33回)
 - 細川千鶴 (高校35回)
 - 馬場智子 (教頭)
 - 松田知隆 (高校32回)
 - 学校職員

編集室だより

新年明けましておめでとうございます。

旧年は創立120周年事業の節目を終えた矢先のコロナ禍で、その後の同窓会事業を中止せざるを得なく残念な一年となりました。

同窓会誌「天守台」におきまして一度休刊し、なんとか今号を発行する事ができました。

新年を迎え同窓会皆様コロナ禍に負けず、ご健康ご多幸にお過ごしできます様心から祈り申し上げます。

これからも同窓会誌「天守台」へのご寄稿・ご協力・ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。

[同窓会本部] TEL:0761-21-6330 メール:tensyudai@gmail.com

